



1 理事会開催 —26 学年度は 10 人減の 940 人採用—

6 月 10 日、第 47 回理事会が都内会場にて開催され、全国から理事 29 人、監事 3 人が出席しました。開会に先駆け、故小沢一彦名誉理事長の追悼映像の上映と、黙とうを行いました。

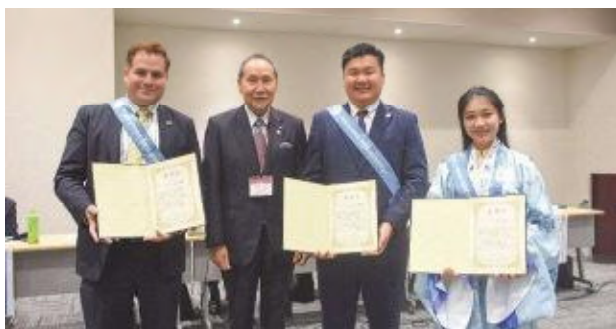
今回の理事会では、議長の若林紀男理事長の進行の下、主な議案として、2026 学年度奨学生採用数、2026 学年度募集要項、2025 年度事業計

画案、資産運用方針案、収支予算案などが審議されました。これらの議案は各担当理事、事務局長からの提案説明を経て、すべて原案通り承認されました。これにより、2026 学年度の奨学生採用数は、前年度から 10 人減少の 940 人（枠）とすることなどが決定しました。

2 よねやま親善大使セレモニー開催「かけがえのない経験」

6 月 10 日理事会開催前、この 6 月末で退任となる第 5 代よねやま親善大使 3 人の退任式が行われました。退任記念品の感謝の盾が贈られ、「かけがえのない体験をさせてもらった」「活動期間中に得たつながりや学びをこれから還元していきたい」など、それぞれの大使が 2 年に及ぶ活動や支援への感謝を述べました。精力的かつ柔軟に活動していただき、心より感謝申し上げます。

続いて、第 6 代よねやま親善大使 3 人の任命式が行われ、全国各地の理事が見守るなか、



若林理事長から委嘱状が手渡され、それぞれが活動への抱負を述べました。

その後は、事務局会議室にて第 5 代・第 6 代よねやま親善大使合同オリエンテーションを開催。親善大使活動を行う上でのアドバイスや体験談について情報交換を行いました。

7 月から、第 6 代よねやま親善大使の 3 人が 2 年の任期で活動を開始します。地区の米山関連行事やクラブ例会などに、ぜひお呼びください。招へいをご希望の場合は、派遣申請書の提出が必要となるため、米山奨学会事務局広報担当（長尾）までご連絡ください。



3 寄付金速報 今年度の寄付実績は 6 月 30 日（月）まで

前年同期比

-7.1%

普 - 1.3% 特 - 9.6%

5 月末までの寄付金は前年同期と比べて 7.1% 減（普通寄付金：1.3% 減、特別寄付金：9.6% 減）、約 9,380 万円の減少となりました。5 月は 18

のクラブから創立記念寄付として、特別寄付合計 295 万円のご寄付をいただきました。

今年度のご寄付は 6 月 30 日（月）までに着金するよう、余裕をもってご送金をお願いいたします。今年度も残り 2 週間余りとなりましたが、引き続き当事業へご協力を賜りますようお願いいたします。

4 全国学友会代表者セミナー開催

国内外の米山学友会代表者を対象としたセミナーが5月24日、ハイブリッド形式で開催されました。学友



会をさらに発展させるためにヒントを得てもらうことを目的に開催された今回、会場には学友会代表者31人が集まり、海外学友会の7人がオンラインで参加しました。また、初の試みとして、各地区の米山奨学委員にも参加を呼びかけ、33人が出席。総勢70人を超えました。

午前の部では、若林紀男理事長、学友委員会の石黒秀司委員長からそれぞれ挨拶をいただいた後、事務局から標準会則の見直し等について説明を行いました。次に、ベトナム南学友会から奉仕活動について事例発表が行われた後、台湾学友会から届いた第4回米山学友による世界

大会「愛 in 台湾」のメッセージ映像を上映。続いて、米山奨学会からの提案として、10月の米山月間に共通テーマで奉仕活動を行うことに関して、説明が行われました。

午後の部では第2610地区と第2620地区学友会から活動の工夫について事例発表が行われた後、学友会代表者は5グループに分かれ、グループディスカッションを実施。別室で開かれた地区米山委員対象のセッションでは、学友会との連携強化について、3地区の事例紹介を交えながら意見交換が行われました。大久保章宏学友担当理事からの講評後、交流会が開催され、地区を越えた学友会の輪が広がる機会となりました。

5 20年続く米山学友とカウンセラーの縁

国際ロータリー第2760地区岡崎東RCの山内隆一会員は今から約20年前、グエン タイ ブィさん（2005-07／岡崎東RC）と出会い、カウンセラーとして日々を共にしました。当時からタイさんは誰と



山内会員(中央)とタイさん(左)夫妻

でも気さくに交流ができる好青年で、一番の思い出は2005年、愛知万博の会場でクラブ例会を行ったときのこと。ベトナム館に入場し、とても喜んでいてタイさんの姿が印象に残っているそうです。

帰国後もメールでのやり取りを絶やすことなく続け、現在は阪和ベトナム株式会社の鉄鋼部

署でゼネラルマネージャーとして勤務するタイさんが、今年の4月に出張で来日した際に岡崎で再会。山内会員の親族も含め盛大に歓迎しました。

奨学期間を終了する時にメールでのやり取りを続け

ていこうと約束し、現在まで18年間二人の交流が続いていることについて、山内会員は「自ら会いに行くことも大切」とし、カウンセラーを務める上で大切なことは「海外から来日して不安や悩みを抱えている若者に対する心のケアや、アドバイスが適切にできるかどうか」だと述べられています。

米山学友と再会

ホームカミング制度をご活用ください

活躍する米山学友を各地区が毎年度上限2人までを選び、地区の行事に招待して、地区内のロータリアンへその活躍ぶりを披露していただく制度です。地区が誇る学友を一人でも多く見出し、米山奨学事業の意義を広めるとともに、学友との絆を深める制度としてご活用ください。

詳細はこちら





1 第 2660 地区米山学友会 40 周年記念式典開催

7月6日、国際ロータリー第2660地区米山学友会の40周年記念式典がシェラトン都ホテル大阪にて開催され、



国内外から約320人が集結しました。当会からは若林紀男理事長と6人の学友委員会委員が臨席しました。開会に先駆け、故小沢一彦名誉理事長の追悼映像の上映と、黙とうが行われました。

3部構成の第1部総会では、同学友会会長の呉偉偉さん(2010-11/青森東RC)の開会の辞、水野功RI理事、同地区の吉川健之ガバナーの挨拶に続き、学友会活動等の報告が行われました。

第2部の記念式典では、実行委員長で同学友会顧問の何玉翠さん(1987-89/奈良RC)の挨拶、若林理事長の祝辞の後、同学友会の歴代会

長、同地区の歴代地区米山記念奨学委員長への記念品贈呈や、海外学友会からの参加者紹介などが行われました。

第3部の懇親会では、米山バンドによる演奏やダンスが披露された後、同地区の現役米山奨学生が紹介され、温かい拍手に包まれました。参加者から「米山奨学事業への熱量の高さに感銘を受けた」という声が挙がるほど、会場は大盛り上がりとなりました。

翌7日は「EXP02025 大阪・関西万博米山ツアー」と題し、各班に分かれて万博会場を散策。約100人が参加し、さまざまなパビリオンを巡りながら最先端技術に触れるとともに、米山奨学生・学友とロータリー会員が交流を深める機会となりました。

2 第 2 回 次期地区米山奨学委員長セミナー開催

6月9日、2025-26年度地区米山記念奨学委員長を対象とする第2回セミナーを都内会場で開催しました。

午前の部は、神野重行常務理事の挨拶に続き、事務局から学務・学友・広報関連について説明を行いました。午後の部では、事例発表①として、第2760地区の神谷恵理委員長から、海外応募者対象奨学金採用の取り組みについて、続け

て事例発表②として、第2770地区の小川和義次期委員長から、米山奨学事業への理解促進と寄付増進の取り組みについて、それぞれご紹介いただきました。その後4グループに分かれて「指定校選定および学校との連携について」という共通テーマでディスカッションと各グループからの報告が行われ、質疑応答を経て、井原實副理事長の講評で締めくくられました。

米山学友と再会

ホームカミング制度 補助費変更のお知らせ

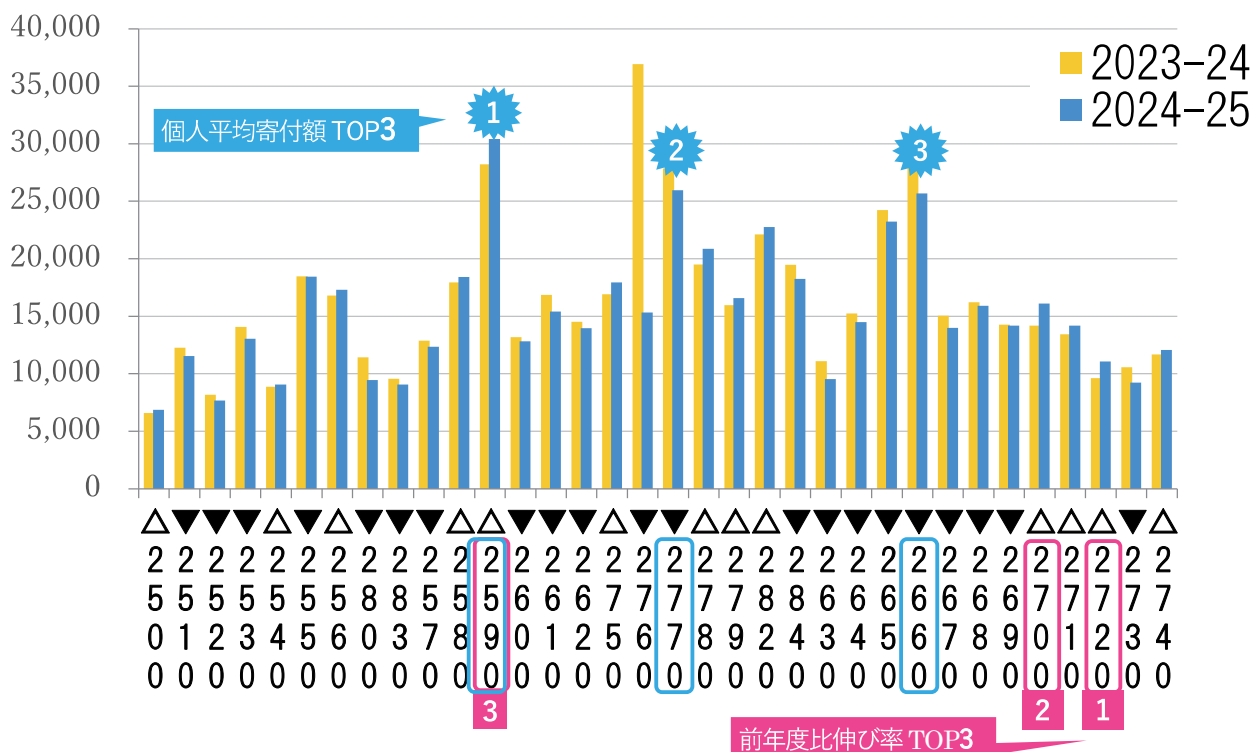
ホームカミング制度の補助費上限はこれまで一律25万円(1人につき)でしたが、2025年度からは、日本国内からの招聘は上限25万円、海外からの場合は上限35万円が支給されます(※実費精算)。各地区が誇る学友を招くため、ぜひ制度をご活用ください。

詳細はこちら



3 2024-25 年度 寄付金結果

2024-25 年度の寄付金は約 13 億 3,000 万円となりました。前年度比 7.9% 減（普通寄付金:1.3% 減、特別寄付金:10.6% 減）、約 1 億 1,500 万円減少しました。ご寄付いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。2025 年度も引き続き、よろしくお願いいたします。



個人平均寄付額 TOP3 【全国平均：15,999 円】

① 第 2590 地区：30,406 円 ② 第 2770 地区：25,967 円 ③ 2660 地区：25,685 円

前年度比伸び率 TOP3

① 第 2720 地区：114.7% ② 第 2700 地区：113.6% ③ 2590 地区：107.7%

4 新規奨学生へ先輩奨学生が卓話を実演指導

6 月 28 日、国際ロータリー第 2790 地区が新規奨学生向けの第 2 回研修ゼミを成田市内で開催し、現役米山奨学生とカウンセラーら 77 人が参加しました。

この研修は同地区米山記念奨学委員会の主催で毎年行われており、奨学生は例会出席や卓話について、カウンセラーは奨学生本人について、それぞれ理解を深めることを目的としています。

第 1 回の研修は、「ロータリーを知る」をテーマに 5 月 17 日に開催。第 2 回となった今回、「卓話とは何か？どうやって話すのか？」をテーマに、卓話に関する注意事項の共有を行い、先輩奨学生が卓話を実演しました。参加した奨学生からは、「発表の構成が印象的で、日本語の使い方が勉強になりました」といった感想が挙



卓話を実演する米山奨学生

がりました。

2024 年度同学友会会長の玄香花さん（2022-24/木更津東 R C）は、「私も奨学生当時、研修会に参加したおかげで卓話への理解が深まり、非常に役立ちました。奨学生とカウンセラーの距離がぐっと縮まる大変貴重な機会です」と述べました。